

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Immunoglobulin E levels and pregnancy-induced hypertension: Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠初期の血中総 IgE が妊娠高血圧症候群に与える影響について

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Scientific Reports

年: 2021 DOI: 10.1038/s41598-021-88227-2

筆頭著者名: 経塚標

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

分娩が初めての妊婦にとって、妊娠高血圧症候群の発症には免疫学的機序が関与しているといわれています。当研究では初産婦において妊娠初期血清 IgE が早発型妊娠高血圧症候群及び遅発型妊娠高血圧症候群発症リスクに与える影響について調べました。

方法:

エコチル調査にて妊娠時点で高血圧を認めない初産婦を対象としています。本邦における血清 IgE 値の正常値を参考に、妊娠初期の血清 IgE 値が 170 IU/ml 以上のグループを IgE 高値と定義しました。血清高 IgE グループの妊娠高血圧症候群の発症リスクについて多変量解析を用いて調べました。

結果:

当研究の対象者は 32,518 人でした。解析の結果、妊娠 34 週未満の早発型妊娠高血圧症候群の妊婦では、妊娠 34 週以降発症の遅発型妊娠高血圧症候群と比較して、妊娠前 BMI や母体年齢が有意に高いことがわかりました。多変量解析の結果、妊娠初期に血清 IgE が高いグループでは遅発型妊娠高血圧症候群のリスクが 1.2 倍上昇することが明らかになりました。一方、妊娠初期の血清 IgE 高値と早発型妊娠高血圧症候群の発症リスクには関連がありませんでした。

考察(研究の限界を含める):

早発型妊娠高血圧症候群と遅発型妊娠高血圧症候群ではその発症機序が異なると言われていています。今回、妊娠初期の血清 IgE 高値と遅発型妊娠高血圧症候群のリスク上昇に関連があったという結果になりました。一般成人では高血圧で血清 IgE が上昇すると言われていています。その為、妊娠初期の血清 IgE 上昇と遅発型妊娠高血圧症候群のリスク上昇に関連があったのは、潜在的な血圧上昇のリスクのある女性が妊娠を契機に妊娠高血圧症候群になったと推定されます。今回、妊娠高血圧症候群を、妊娠高血圧症と、臓器障害がより強く出現する妊娠高血圧腎症に分類していません。その為、血清 IgE 高値がどの種類の妊娠高血圧症候群に影響を与えたかまでは判断できません。

結論:

早発型妊娠高血圧症候群と遅発型妊娠高血圧症候群は異なる発症メカニズムである可能性が示唆されました。妊娠初期の血清 IgE 上昇は妊娠高血圧症候群の発症バイオマーカーの役割を果たす可能性があると考えております。